

評価シート

耐震	部位	壁	分類	閉鎖型	有効期限	2027年3月31日	評価番号	A-442
評価技術名称					連絡先			
部分開口 構造用合板補強工法 真壁「1間 上下あき」薄棧あり					https://www.aichi-gensai.jp 愛知建築地震災害軽減システム研究協議会 実験実施機関 :名古屋工業大学			
概要	技術概要 構造用合板を横向きで用いて、1間の壁面を真壁の仕様で横架材及び土台と面材を接合せず、床天井間のみを構造用合板で補強する工法。							
	技術の特徴						コスト	
	<ul style="list-style-type: none"> 天井・床を解体することなく補強が可能 1間の間に柱がない真壁に有効 裏棧の奥行は30mmなので壁体内に土壁や設備配管等が存在しても施工可能 						サンプル構面	18,792円/kN
						設計見積り例	—	
仕様	適用範囲				写真・図			
	構法	木造在来軸組工法						
	規模	3階建て以下						
	基礎、地盤	特になし						
	適用部位	内外壁						
	耐震性能							
	評価仕様:真壁仕様							
	壁基準耐力		壁基準剛性					
	3.12kN/m		726kN/rad/m					
	A-111からの低減係数 $\alpha = 0.6$ 壁基準耐力 $5.2 \times 0.6 = 3.12$							
設計方法								
① 柱接合部による低減 : 取付部分が健全であること								
② 劣化による低減 : 取付部分が健全であること								
施工者指定								
特になし								
主要構成部材の仕様								
構造用合板	真壁、厚12mm、横使い、各高さ400mm以上							
	釘 N50、CN50、@100mm以下、四周打ち、端あき15mm以上20mm以下							
間柱	なし							
継手受材	奥行30×見付90mm以上、釘 四方受材に対し2-N75斜め打ち、四方受材(縦)に対し、継手受材負け							
上下受材	奥行30×見付90mm以上、釘 2-N75斜め打ち							
四方受材	〈縦〉奥行30×見付40mm以上、釘 N75@150mm以下、またはN90@200mm以下							
下地材	なし							
アルミアングル	なし							
かさ上げ材	なし							
その他								